

単元名: 私たち“の”SDGsのために

氏名: 野瀬 晴佳	学校名: 大阪市立今津中学校	
担当教科: 社会科	実践教科: 社会科・総合的な学習の時間	
時間数: 5時間	対象学年: 1年	人数: 193人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標: 私たち“の”SDGsのために

- ・SDGsの目標を自分事として捉える
- ・課題を解決するためにできることや持続可能な開発のために、自分ができるところを協同的に考え、多角的な視点で追求したうえで主体的なアクションプランを考えることができる

【2】 単元の評価 規準	(ア) 知識・技能	・SDGsの理解を通して、今世界が直面している課題が深刻かつ多様化していることに気づき、自分事として捉えている。
	(イ) 思考・判断・表現	・収集した情報を必要に応じて取捨選択し、自分達にできることを考えるために活用している。 ・様々な視点から多角的にまとめたアイデアを他者にわかりやすく伝えている。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	・積極的に他者と意見交流を行い、課題解決に取り組もうとしている。
【3】 単元設定の理由	【生徒観】 小学校でSDGsの学習を始めており、意義や内容について理解できている生徒が多い。しかし、どこか遠くの世界の話であり、自分事として捉えられている生徒は多くはない印象である。生徒達は1学期の地理的分野の学習で世界の人々の暮らしを学び、他の国々に興味を持つようになっているため、ペルーにフォーカスして深く掘り下げることにより、生徒が世界に目を向けSDGsを自分事として捉えられるきっかけにしたい。 また、普段の学習活動では、積極的に発言する生徒が多い。全体の中ではそうではない生徒も、班活動になると積極的に意見を発表できることが多い。しかし、様々な意見をまとめたり、順序立てて論理的に説明したりする力が乏しく、それらの育成がこれからの課題である。 【教材観】 来年は大阪・関西万博が開催されることもあり、生徒達も世界とのつながりを感じる場面が増えると予想される。SDGsを土台にして、世界に広く目を向けさせるとともに、世界が置かれている状況を自分事として捉えられる視点を身につけたい。 実際、世界の課題は多様化かつ複雑化しており、2030年までにSDGsのすべての目標が達成されることは非常に厳しい見通しである。その中で、今生きている私達の世代だけでなく、次の世代や、さらに次の世代にも持続可能な社会をバトンパスすることは大変重要な使命であると言える。それを踏まえた上で、悲観的にも楽観的にもなりすぎず、中庸の立ち位置で今できることを考え、実行していくことのできるマインドを醸成したい。 【指導観】 SDGsを通して、世界が直面する課題を生徒が自分事として捉えられるようになることを目指す。具体例として、日本から遠く離れたペルーで脈々と継承される日本文化や日系人のことを知り、世界と生徒自身の心の距離を縮めることにより、世界を身近に感じたり自分事として捉えたりさせたい。 班活動では、主体的に他者と意見交流し、多様な意見に触れるきっかけにしたい。	

【設定時に想定された生徒の変容】

外国に興味を持つことと、SDGsを他人事から自分事として捉えられるようになることが期待される。

現時点では教科書や授業で知る以上の外国に興味を持つ生徒は少ないが、今回ペルーについて知ること、私達の文化や生活は日本国内に留まらず世界と繋がっていることを理解し、その他の国や地域に興味を持って調べてみるなどの行動が見られたい。また、大阪・関西万博に関しても興味を持ち、様々な国のパビリオンやイベントを調べてみたり、訪れる予定を立ててみたりする生徒も出てくるかもしれない。更には、SDGsは私達にも深く関係していると気づき、世界の誰かのためのSDGsという認識から、「私たちの」SDGsという認識に変容することが期待される。

【4】展開計画(全5時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	SDGsの概要を知る	○SDGsの概要を説明する ○NHK「SDGsかるた」を作成する ・NHK for schoolの動画を見て、各生徒が興味を持った目標を選ぶ。 ・課題解決のためにできることや、他者に伝えたいことを「5・7・5」にまとめる。 ・「5・7・5」の内容に応じた絵札を作成する。 ・班でお互いのかるたを見せ合い、様々な視点があることを知る。	・NHK for School ・NHK「SDGsかるた」
2	SDGsの理解を深める①	○2「飢餓をゼロに」 10「人や国の不平等をなくそう」 16「平和と公正をすべての人に」等 ・ゲストティーチャー(ユニクロの“届けよう服のチカラ”プロジェクトの講師)に難民問題について講義をしてもらう。 ・難民のために自分達ができることを考える。	・スライド
3	SDGsの理解を深める② (教師海外研修の報告)	○1「貧困をなくそう」 8「働きがいも経済成長も」 11「住み続けられるまちづくりを」 13「気候変動に具体的な対策を」 17「パートナーシップで目標を達成しよう」等 ・ペルーで撮影された写真を見ながら理解を深める。 ・地球の反対側の国で、日系人の暮らしがあることや日本の文化が継承されていることを知る。 ・日本と同じ環太平洋造山帯に属する国の防災対策を知る。	・ペルーで撮影した写真 ・スライド ・ワークシート
4 本時	私達“の”SDGsのために できることを考える ～ペルーの未来のために 私達ができること①～	○17「パートナーシップで目標を達成しよう」をベースに、すべての目標を踏まえてペルーの未来のためのアクションプランを探究する ・ペルーの写真から、素敵な点とペルーの課題点を読み取る。 ・素敵な点を持続するために、また課題解決するために、自分達ができることを複数の時間軸で考える。	・ペルーで撮影した写真 ・スライド ・ワークシート

5	私達“の”SDGsのためにできる小さな一歩を踏み出す ～ペルーの未来のために私達ができること②～	○前時で考えたアクションプランをペルーの人に伝えるために動画などにまとめる。 ・一緒にお互いの国の未来のことを考えることがSDGsにつながることを理解する。	・タブレット
【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	○前時までの振り返り ・SDGsの概要 ・ペルーの概要	・ペルーについて、偏らないように中立の立場で伝える。	・スライド
ペルーの未来のために、私達ができるアクションプランを考えよう			
展開 (35分)	○フォトランゲージにより、ペルーの写真から読み取りを行う。(パチャカマック遺跡の修復の様子、ラタム航空のCAのユニフォームをアップサイクルしたお土産、市場で売られている紫とうもろこしや吊るされた鳥、交通渋滞と交通整理の警察官、ごみが溢れている道路、斜面に所狭しと建っている家々、日本人ペルー移住史料館、ペルーで出会った日系人、日系校の様子、ホームビジットの様子) ・「素敵ポイント」と「課題ポイント」、「その他」をふせんに書き出す。 ・「素敵」「課題」のそれぞれふせんが多い写真を1枚ずつ選ぶ。 ○ペルーの未来のためにできることを考える ・マトリクスを活用する。	・長文にならないよう気づいたことをたくさん書くよう促す。 ・素敵とも課題とも、どちらとも決めることができない事象があることを伝える。 ・「素敵ポイント」と「課題ポイント」を分けて、ふせんをまとめる。 ・それぞれの関連するSDGsの目標を選ぶ。 ・関連する目標は複数考えられることもあると伝える。 ・机間巡視を行い、気づきのきっかけとなる助言を行う。 ・「素敵ポイント」→持続するためにできること ・「課題ポイント」→解決するためにできること ・ワークシートにまとめる。 ・自分事として捉えられるよう助言を行う。	・スライド ・写真 ・ふせん ・SDGs17の目標のロゴ
まとめ (10分)	○共有と次時の予告	・いくつかの班のまとめを共有する。 ・次時にペルーの人と共有するコンテンツを作ると伝える。	・ワークシート

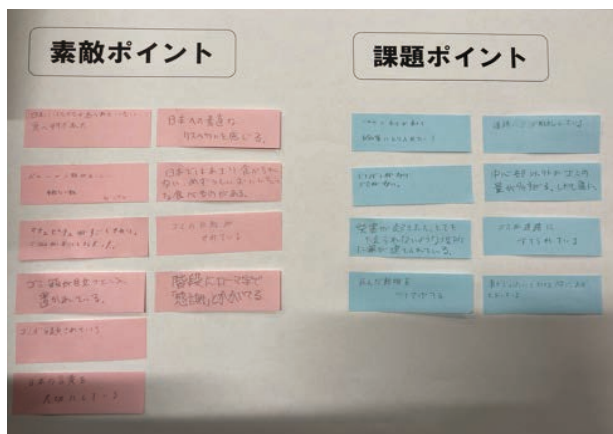
【授業実践の様子】



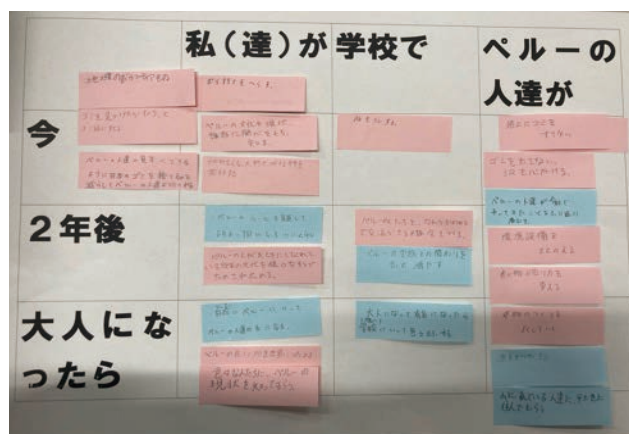
「素敵」と「課題」フォトランゲージ



ペルーの未来を考える



「素敵」も「課題」もいろいろ



持続可能なペルーのために

【6】本時の振り返り

○主体的な活動○

生徒達に活発な意見交流などの活動が見られた。フォトランゲージにおけるKJ法の活用やマトリクスなどの手法がクラスの生徒の発達段階にに応じていることがわかった。自然発生的に役割分担ができており、付箋を内容ごとにまとめて貼ったり、他者に意見を促したりする様子も見られた。

○ICTの活用○

各々のタブレットで写真を閲覧できるようにした。個人のペースで見られる点や、気になる箇所を拡大して見られる点など、多くのメリットがあった。

○時間配分○

生徒の活動の時間を十分にとることができ、内容を充実させることができた。しかし、最後のまとめに時間を残すことができなかったため、本時の学びを日常に生かすところまで落とし込むことができなかった。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

○今後も世界に目を向けて学習していきたいと思いますか …肯定的な回答 61%

○SDGsについて、自分にできることはあると思いますか …肯定的な回答 83%

○今後どんなことを学びたいと思いますか

<日本に関して>

- ・海外で人気のある日本の文化
- ・世界で活躍している日本人のこと
- ・世界の日系人のこと

<その他>

- ・難民や困っている人の支援の仕方
- ・今世界で起きている戦争のこと

日本について改めて違う視点から見たことで、日本への興味や関心がさらに高まった印象である。私達が日本の素晴らしさを理解するからこそ、外国の素晴らしさを理解することができる。その上でお互いを大切にしよう心が生まれ、難民や貧困状態にあるなどして困っている人々に目を向けることができる。生徒の意見から、そのような学びや気づきが見られた。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

多くの生徒は異文化・多文化への興味や関心がそこまで強くない印象であった。ペルーについて知っているとした生徒がほとんどいなかったことから、知りたいことも抽象的なことしか出てこなかった。また、学校生活のことや趣味のことなど、個人的な範囲に留まった。

○ペルーについて知っていますか …否定的な回答 ほぼ100%

○ペルーについて知りたいことは何ですか

<ペルーのこと>・流行していること ・人気のあるスポーツ ・有名な食べ物 ・人気のあるアニメ

<学校生活のこと>・学校は楽しいか ・休み時間にしていること ・給食当番や掃除当番

<個人のこと>・好きな食べ物 ・好きな教科 ・好きなゲーム ・好きなアニメ

(授業後)

○ペルーの学習をしてからペルーについての理解は深まりましたか …肯定的な回答 75%

多くの生徒がペルーについての理解が深まったと答えた。授業前に比べて、具体的な疑問が出てきたり、自分で調べてみたりした生徒もいた。馴染みのない国だと思っていた異国の地で、日系人が暮らし、日本の文化が根付いていることに驚きを感じていた。

また、ペルーのことを知って、他の国のことに興味を持ったり、日本のことを改めて見直してみたりして視野が広がっている様子が見られた。世界について学ぶ中で、改めて日本の素敵なおとこや課題が見つかり、日本も含めた世界という見方を再確認できていた。

○ペルーについて印象に残ったことや初めて知ったことは何ですか

<日本との関わり・日系について>

- ・日本とペルーではたくさんの共通点がありました。学校では日本の価値観を大切にしていっているなと思いました。日本とペルーはそんなに関係のない国だと思っていたので、とてもびっくりしました。
- ・ペルーの人が日本のことをよく知って、日本の価値観を取り入れていること。
- ・日本とペルーがそんなに親密な関係だったとは思わなかったの、新しく知れてよかったです。
- ・かなり日系の人が多いというのは知らなかった。
- ・浜田ケインさん(※授業者注:海外研修で出会った日系の方)の人生が壮絶すぎてびっくりしました。

むらさきのコーンのジュースがおいしそうだなと思いました。ペルーと日本はつながっていないと思ってたけど意外とつながっていてびっくりしました。日本語を学ぶんだなと思いました。鳥がまんま売られててとてもびっくりしました。海外行ってみたいなと思いました。

そして、日本のアニメやゲームが人気ということを知って、すばらしいアニメ・ゲームの生きた場所に今住んでいることをとてもほかに思っています。

です。ペルーと日本はすごく関係性が深く、お互い国の良いところを取り入れているので仲のいいことがわかりました。

ペルーに日本語などが「学べる学校が」あると初めて知ったが「日系の人だけ」なく、ペルーの人もいるのを知りよりおどろいた。

<その他>

- ・外国のお金は見たことがなかったので、実際に外国で使われている物を持ってきて不思議な気持ちになりました。
- ・スペイン語を話していることを初めて知りました。
- ・ペルーは民族っぽいところを想像していたけど、リマは栄えていて意外でした。

○ペルーについて疑問に思ったことや、更に詳しく調べてみたいことはありますか

- ・日本とペルーの関係を詳しく調べてみたいです。
- ・移住者が当時どのような暮らしをしていたか、また移住者と現地のペルー人との間で争いはなかったのか。
- ・移住者の写真結婚について調べてみたいです。
- ・ペルーにポケモンの店やフィギュアを売っている店があると知ったので、なぜ日本のアニメが人気なのかを調べてみたいです。
- ・なぜ国によって通貨が違うのか調べてみたいです。

○ペルーの未来のために私達ができることはありますか

- ・他学年にペルーのことについて教えたいです。
- ・ペルーの学校と関わる。
- ・ボランティアに参加する。
- ・ゴミを見つけたら拾ってゴミ箱に捨てる。

【8】自己評価

1. 苦労した点	○フラットな視点○ ペルーについて、偏った印象にならないように意識した。当初、「ポジティブな点」と「ネガティブな点」という言葉を使っていたが、ポジティブは良いこと、ネガティブは悪いこと、という一元的な見方になる恐れがあったため、「素敵」と「課題」という言葉を使うことにした。今は素敵に見えることでも、何もせずに得られるものではない。持続させていくことや改善することを意識して、そして行動に移してこそよりよい社会を作ることになると強調した。 また、使用する写真についても、限られた時間で「素敵」や「課題」が同等かつ効果的に見つけられるものを選択することを意識した。
2. 改善点	○フォトランゲージで使用する写真○ 対象物に焦点を当てた構図で撮影していたため、フォトランゲージの際に生徒から出る意見が限定的になった。より広い範囲で多くの対象が映るようにした方が、生徒の視点が分散し、より多様な意見が出たと思う。 ○フォトランゲージの視点○ 予定では、フォトランゲージの視点を「素敵」「課題」「その他」にしていたが、時間の都合上「その他」を省いた。しかし、「素敵」とも「課題」とも決め切るのが難しいという声が上がっていたため、「その他」を残した方が多様な意見が出たかもしれない。 ○マトリクスの時間軸○ 「今」「2年後(中学3年生時)」「大人になったら」という時間軸で構成したが、生徒にとっては「2年後」の自分を想像するのが難しい様子であった。授業者の思惑では、最高学年になり、生徒会や様々な場面で学校の中心を担うようになるため、学校全体を巻き込んだ取り組みの意見が出てくることを期待していた。しかし、生徒にとっては同じ中学生であるので、今できることと2年後にできることの違いが考えづらいという意見が出ていた。 時間軸は「今」と「大人になったら」に減らし、実行軸を「私(達)」「学校」「ペルーの人達」に加え、「地域」や「政府」などを増やして視点を変えても良いかと思う。
3. 成果が出た点	○自分事としての捉え方○ 生徒達にとって「世界のどこかにある国」のひとつだったペルーが、「知っている国」になったことが大きな収穫の一つである。ペルーの景色や、そこで根付いている日系人の暮らしに触れたことで、身近な国として捉えられるようになった。 地球の反対側の「素敵」や「課題」を持続したり解決していくために、自分達ができることを考えることができた。 今回の学習を通して、生徒の中の「世界」と「自分」の距離が近くなった。私達も世界の一員であり、その世界のために私達が行動するための指標がSDGsであるという認識が芽生えた。これからも、「正解」がない問いに向き合い始めた生徒達に新たな視点を提案していきたい。
4. 備考	今回、教師海外研修に参加させて頂き、学び多き実りある機会となった。授業者の学びが、生徒の学びの広がりや深まりにつながっていくことを実感できた。大変貴重な機会を頂き、本当に感謝している。

添付資料:



添付資料:

